

# ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成14年 **2002.4**

月刊アカンサスニュース  
金沢大学広報紙 第67号

## 第4回運営諮問会議を開催

TOPNEWS

3月27日、金沢市内のホテルで第4回金沢大学運営諮問会議を開催した。

会議は、「大学改革について」を議題とし、現在の国立大学を取り巻く状況を踏まえて、金沢大学が取り組んでいる改革について討議した。

林勇二郎学長ら大学側から、「国立大学法人化」「教員養成」「学内組織の再編・統合」「教育改革」などについて方針や取組みの説明があり、6人の出席委員からさまざまな質問や意見が出された。



あいさつする林学長

## 平成13年度金沢大学フォーラム －特別講演会－ひらく

3月7日、佐々木正峰独立行政法人国立科学博物館館長(前文化庁長官)を招き、「大学の改革について」と題して平成13年度金沢大学フォーラム－特別講演会－を開催した。林学長をはじめ、教職員約80名が聴講した。佐々木館長は、大学の構造改革をはじめ、法人化に際して留意すべき大学改革の視点や検討課題等について強調した。



講演する佐々木館長  
＝事務局大会議室で

## 卒業式における学長告辞

## 国際人として21世紀の社会を切り拓け

### 平成13年度 金沢大学学位記・修了証書授与式学長告辞

本日ここに、平成13年度金沢大学学位記・修了証書授与式が挙行されましたこと誠に慶賀に存じます。ただいま学部卒業生1,878名、大学院修了生712名、専攻科10名、別科26名の方々に学位記及び修了証書を授与いたしました。卒業生、修了生の皆さんおめでとございます。心からお祝いを申し上げます。ご家族・保護者の方々には、これまでのご苦労への感謝と併せ、お喜びを申し上げます。

諸君は、4年間あるいは6年間を本学で学び、金沢の街で生活し、多くの友人と親しみ、自己の形成に努められました。卒業にあたり、このことに誇りと自信を持って、またこれまでお世話になった方々への感謝の気持を忘れずに、新たな一歩を踏み出していだきたいと存じます。

人類は今、千年紀そして21世紀の入口に立っています。しかし、複雑な国際情勢の中で、特に混迷する我が国にあって、これから先をどのように歩めばよいか見えてきません。人類の来し方である歴史には、生命の歴史があり、文明、政治、経済そして科学や技術の歴史があります。幾筋もの小さな流れにはじまる歴史は、干渉・合体・消滅を繰り返し、やがて浩々蕩々たる流れとなりますが、それが地球という一つの空間で制約されるとき流れは複雑なものとなります。グローバル化の時代にあつて、行く末はまさに混沌の様相を呈していると言えましょう。

1989年にベルリンの壁が崩壊し、世界の二極体制が終息した後、グローバル化が一挙に進みました。そしてこのグローバル化は、宗教、民族、文化を一つの文明として括る新たな国際社会を

創り出しています。昨年の9月11日に起きた同時多発テロは、人類史上の汚点となる悲しむべき事件でしたが、テロ後の国際関係は、アフガニスタンを中心としたイスラム圏を取り巻き一段と複雑なものとなっています。

歴史を文明の視点で捉えたのはアーノルド・トインビーです。エジプト文明やアンデス文明に始まり西欧文明に至るまで、地球上には多くの文明が発生し、やがて消滅しました。そこでは挑戦と応戦が繰り返され、大文明の周辺にある国々では帰属と攘夷の選択が迫られ、今の文明圏が形成されています。サミュエル・ハンチントンは、文明の衝突論を提唱し、今後は7つか8つの文明で世界が構成されるとしています。しかし、21世紀において最も重視すべきことは多様性と調和です。多様性を否定しかねない衝突論には、さらなる暴力を拡大するものとして、米国のユニラテラリズムとともに批判が出始めているところでもあります。

我が国は今、このような国際社会にあつて、規制緩和と開放が求められ、このことで政治、経済そして教育においてさえも多くのほころびが出始めています。戦後、復興と民主化を名分として、米国とバイラテラルな関係を持ち、それを維持

することで今の我が国の発展があります。しかし、米国に強く依拠したバイラテラリズムは、国としての主体性を弱め、構造的にも精神的にも脆弱な今の体制をもたらした一因となっていることは否定できません。明治の近代化が実質的には何も根ざさなかったように、今の日本は、再びこの苛立ちと自己嫌悪にさいなまされているように思えます。

諸君はこのような時期に社会人となられます。市民として、職業人として、諸君に求められるのは一人一人の主体性と個性であり、自己を主張し相手を理解する競争的共存の精神です。そして、そこでは倫理がルールの基本となりましょう。企業競争は熾



烈ですが、消費者やユーザー、さらには人類が共有する環境等、倫理にもとった他者との共存があつてはじめて、競争があり得るはず。我が国の経済は、低迷し続ける中で失業率は5%を超え、企業における終身雇用や年功序列の形態は崩れつつあります。将来を担う子供たちの教育においても多くの不安があります。このような中で、諸君は自らキャリアを求めて行動する職業人であり、家庭を愛する善良な市民であらねばなりません。人類の持続的な発展には、地球人であり国際人であることが求められましようが、それにはまず、国際社会で主張できる日本人でなければなりません。

今、これまでの歴史を後悔しても始まりません。大切なことは諸君の一人一人が、今ある現在何ができるかです。道は遠くにありますが、まずは近くに求めなければなりません。日々の活動は、歴史におけるほんの一瞬に過ぎないかも知れませんが、世代を継ぐ子供たちからお年寄の方々までに、自分の来し方と行く末の想いを重ねるとき、人生80年のスパンを視野とした行動が可能となりましよう。四季の移ろいは、地球の自然史を1年の周期で感じさせてくれるはず。諸君には傍観は許されません。自主自律に立った個性と競



争的共存の精神をもって、力強い一歩を踏み出していただきたいと存じます。そして、一人一人の行動を全体の総意とすることで、日本人としてそして国際人として、21世紀の社会を切り拓くことを期待いたします。

四季の移ろいは、角間キャンパスの春色を新たに、浅の川の流に美しい微風を送り始めています。諸君におかれては、自然に恵まれ詩情豊かな学府・金沢で学生生活を送った感動を胸に刻み、世界に向けて大きくはばたかれますよう。国立大学の法人化が予定される中で、金沢大学はさらなる発展を目指し、今

大きく変貌しようとしています。個性を磨くために、再び母校に戻られることがあれば幸いです。諸君の健闘を称え、さらなる発展を祈念し、告辞といたします。

## 卒業生・修了生数

<b>1 卒業生数</b>			
文 学 部			134名
教 育 学 部			237名
法 学 部			201名
経 済 学 部			192名
理 学 部			196名
医 学 部			306名
薬 学 部			79名
工 学 部			533名
合 計			1,878名
<b>2 修了生数</b>			
(1) 大学院			
大学院 文学研究科(修士課程)			23名
大学院 教育学研究科(修士課程)			52名
大学院 法学研究科(修士課程)			11名
大学院 経済学研究科(修士課程)			9名
大学院 医学系研究科(修士課程)			68名
大学院 自然科学研究科(博士前期課程)			447名
大学院 医学系研究科(博士課程)			28名
大学院 社会環境科学研究科(博士課程)			9名
大学院 自然科学研究科(博士後期課程)			65名
合 計			712名
(2) 専攻科			
特殊教育特別専攻科			10名
(3) 別科			
養護教諭特別別科			26名
<b>卒業生・修了生総数</b>			<b>2,626名</b>

## 目次

第4回運営諮問会議を開催	1	工学部第3回教育方法改善 (FD) シンポジウム	8
平成13年度金沢大学フォーラム		日本薬学会賞及び日本薬学会学術振興賞を受賞	8
ー特別講演会ーひらく	1	運営諮問会議新委員及び新任部局長の紹介	9
国際人として21世紀の社会を切り拓け		本学教職員イギリスの大学の管理運営を調査	9
平成13年度金沢大学学位記・修了証書授与式		本学へのお客さま	10
学長告辞	2	退職記念式を実施	10
放送大学と単位互換協定を締結	4	水上事務局長 退任あいさつ	10
金沢がん生物学国際シンポジウムを開催	4	ミニ講演会「石川県の誇る地層や化石」	11
奈良へ実地見学旅行	4	環日本海諸国相互の異文化理解	
就職支援室オープン	5	ーその現状と課題ー開く	11
国際交流後援会を設立	5	防災市民講座	11
附属病院 「国立大学法人に関する講演会」ひらく	5	合格発表	12
附属学校園でも卒業・修了式	6	金沢大学地球学公開セミナー	
附属中学校で文楽公演を鑑賞	7	「ねんどとあそぼうーやきものづくり」	12
“授業が変われば大学が変わるか”		復元する谷戸田を調査	12
理学部でFD特別講演会ひらく	8	編集後記	12

## ニュースの杜

### 放送大学と単位互換協定を締結

3月19日、幅広い知識の修得や教養教育の一層の充実を図るため、放送大学と単位互換協定が締結された。



林学長(右)と丹保憲仁放送大学長  
=総合情報処理センター プレゼンテーション室で

### 金沢がん生物学 国際シンポジウムを開催

3月8日、本学がん研究所国際がん生物学研究会の主催で、金沢がん生物学国際シンポジウム《-岡本肇博士生誕100周年記念-》が金沢市内のホテルで開催され、外国人20名を含む約130名が出席した。

アメリカのAlbert Zlotnik博士、Bingliang Fang博士及び石川冬木東京工業大学大学院教授ほか4名のがん研究者を招き、2部にわたる講演とセッションが行われ、最新の研究成果が英語により発表された。



セッションのようす  
=金沢市内のホテルで



ガイドの説明を聞く留学生たち  
=3月5日、春日大社で

### 奈良へ実地見学旅行

3月5日～6日、平成13年度外国人留学生実地見学旅行が実施された。行き先の奈良では、奈良公園、春日大社、東大寺、国立博物館、興福寺国宝館、法隆寺、中宮寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡を見学した。国宝級の仏像を見学し、日本文化の一端にふれる一方、奈良公園では鹿とふれあい、有意義なひとときを過ごした。

## ニュースの杜

## 就職支援室オープン

3月14日、大学会館3階に就職支援室がオープンした。設置されたパソコンでは、求人検索システムを用いて、求人票の掲示や就職説明会情報、OB情報などが検索できる。



右から看板を上掲する林学長，中村学生部長，畑副学長  
=大学会館3階，就職支援室で

## 国際交流後援会を設立



約80名が出席した国際交流後援会の設立総会  
=事務局大会議室で



発起人代表の  
佃 一成 氏



議長を務めた  
北 実 氏

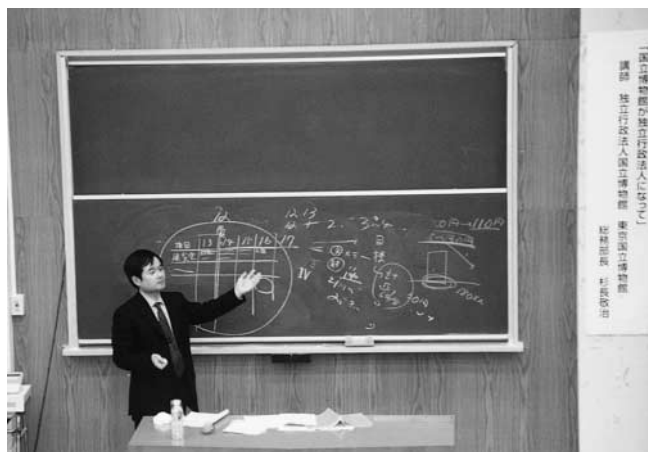
3月5日、国際交流後援会の設立総会が、卒業生や教職員ら約80名が出席して開かれた。同会は金沢大学の国際交流事業を

推進するための安定的な資金確保を目的とし、大学間交流事業や留学生の交流推進等を支援する。

当日の設立総会は北実氏（北國新聞社専務取締役）と平山英明国際交流課長の進行により進められ、発起人代表の佃一成氏（佃食品株式会社代表取締役社長）及び林学長があいさつし、小林昭国際学術交流委員会委員長（経済学部長）が経過を報告した。

## 附属病院 「国立大学法人に関する講演会」ひらく

3月22日、医学部附属病院は国立大学法人に関する講演会を開催した。講師の杉長敬治独立行政法人国立博物館東京国立博物館総務部長は、「国立博物館が独立行政法人になって」と題して講演した。



講演する杉長総務部長  
=医学部臨床講義棟 臨床第一講義室で

## 附属学校園卒業・修了式

### 附属学校園でも卒業・修了式

教育学部附属学校園でも、卒業式、修了式が行われ、小学校106名、中学校155名、高等学校121名及び養護学校17名（小学部3名、中学部6名、高等部8名）、計399名が卒業し、幼稚園児53名が修了した。



＝3月14日，附属小学校で



森源三郎中学校長から卒業証書を受け取る卒業生  
＝3月13日，附属中学校で



上田穰一高等学校長から卒業証書を受け取る卒業生



＝3月5日，附属高等学校で

## 附属学校園卒業・修了式



祝辞を述べる林学長  
=3月8日、附属養護学校で



諸岡康哉園長から修了証書を受け取る園児



=3月12日、附属幼稚園で

## 附属中学校で文楽公演を鑑賞

3月15日、平成13年度文化庁主催「芸術文化ふれあい教室」の一環として、教育学部附属中学校の1年生、2年生が、人形浄瑠璃文楽座による演目「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」を鑑賞した。

また、文楽の解説と生徒代表による実技指導も行われた。



実技指導を受ける生徒代表



鑑賞する生徒  
=附属中学校体育館で

## FD

### “授業が変われば大学が変わるか” 理学部でFD特別講演会ひらく

理学部は、3月4日、慶應義塾大学総合政策学部井下理教授を講師に招いて特別講演会「授業が変われば大学が変わるか（FDの意義と課題）」を開催した。理学部のFD委員会が企画したもので、学外のFDの取組みを参考にしようと、教職員約50名が出席した。講演後の質疑応答では、国立と私立、文系と理系の垣根を越えた様々な取組みについて意見交換が行われた。



講演する井下理教授  
＝理学部第4講義室で



シンポジウムのような  
＝総合教育棟で

### 工学部第3回教育方法改善 (FD) シンポジウム

3月25日、総合教育棟において、工学部第3回教育方法改善（FD）シンポジウムが開かれ、工学部の教官、技術職員等168名並びに畑副学長をはじめとする他部局からの出席者を含め計約200名が参集した。

工学部教育方法改善委員会委員等による教育方法改善に関する基調講演、及びテーマ別の6分科会と全体討論が午後5時頃まで続けられた。

### 日本薬学会賞及び日本薬学会学術振興賞を受賞

3月26～28日、千葉市でひらかれた日本薬学会第122年會において下記のとおり2氏が学会賞を受賞した。

・平成14年度日本薬学会賞

辻 彰 教授

「生体膜輸送の分子機構に関する生物薬剤的研究」

・平成14年度日本薬学会学術振興賞

向 智里 教授

「金属カルボニルを用いる高選択的反応の開発と生物活性物質合成への応用」



薬学部  
辻 彰 教授



薬学部  
向 智里 教授



## 部局長等紹介

### ◎新任金沢大学運営諮問会議委員 (五十音順・敬称略)

佐々木正峰 国立科学博物館館長  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)

新村 健了 石川県高等学校長協会会長  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)

園部 逸夫 外務省参与・弁護士  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)

### ◎新任部局長等



副学長 (研究・環境担当)  
中村 信一  
(任期：平成14年4月1日～平成15年9月21日)



副学長 (学術情報担当)  
金子 劭榮  
(任期：平成14年4月1日～平成15年9月21日)



文学部長  
鹿野 勝彦  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)



経済学部長  
渡邊 力  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)



理学部長  
大村 明雄  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)



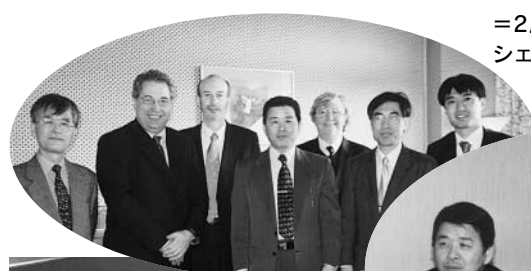
医学部附属病院長  
小林 健一  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)



大学院社会環境科学研究科長  
前田 達男  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)



自然計測応用研究センター長  
金岡千嘉男  
(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)



＝2月27日、  
シェフィールド大学で

### 本学教職員 イギリスの大学の管理運営を調査

2月23日から3月3日まで、大学改革推進室の山崎光悦教授 (工学部)、吉本谷博教授 (医学系研究科)、中越米雄係長 (理学部) 及び林透事務官 (教育学部) の4名が、イギリスの本学協定校に派遣され、大学の管理運営手法、大学改革、大学評価等の調査を行った。19日には調査報告会



報告会のような  
＝3月19日、事務局大会議室で



が開催され、イギリスでの大学評価方法に多くの関心が寄せられた。

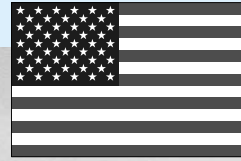


＝2月28日、リバプールジョンモアズ大学で

## 学長室から

### 本学へのお客さま

ニューヨーク州立大学ニューポルツ校(アメリカ合衆国)



左から留学生センタービットマン助教授, 林学長, Bruce Sillner国際交流センター国際交流部長,  
留学生センター岡澤教授  
=3月20日, 学長室で

### 退職記念式を実施

平成13年度末に退職する教職員の「退職記念式」が3月28日に実施され、36名が出席した。

式では、併せて永年勤続者表彰、感謝状授与等が行われた。



=事務局大会議室で

### 水上事務局長 退任あいさつ

3月31日付けで退職の水上修一事務局長が、3月28日、事務局大会議室で退任のあいさつを行った。



## サテライト・プラザ

### ミニ講演会 「石川県の誇る地層や化石」

3月9日、金沢大学サテライト・プラザで、一般市民を対象にミニ講演会が開催された。

神谷隆宏理学部助教授が「石川県の誇る地層や化石ー新しい地球環境に向けてー」と題して講演し、約30名が聴講した。当日は石川県内の大桑層から発見されたホオジロザメの歯やアカエイの化石なども展示され、参加者は実物を手にとって観察することができた。



講演する神谷助教授  
=サテライト・プラザ（2階）で



シンポジウムようす  
=サテライト・プラザ（3階集会室）で

### 環日本海諸国相互の異文化理解 ーその現状と課題ー 開く

3月2日、本学日本海域研究所は、金沢大学サテライト・プラザで国際シンポジウム「環日本海諸国相互の異文化理解ーその現状と課題ー」を開催し、研究者等約40名が出席した。このシンポジウムは、環日本海地域の諸国・諸民族間の異文化理解を深め、国際交流を進展させることを目的として開かれたもので、ロシア、中国、韓国及び日本の研究者が報告した。

### 防災市民講座

3月9日、金沢大学サテライト・プラザを会場に、今回で4回目となる防災市民講座がひらかれ、守屋以智雄文学部教授が「白山の火山史とその災害」と題して、長年にわたって有珠山、地元の白山や戸室火山を対象とした研究成果を講演した。

また、平松良浩自然科学研究科助手も「白山の地震」について講演した。



講演する守屋教授  
=サテライト・プラザ（3階集会室）で

## 合格発表

平成14年度学部入学選抜試験については、3月8日に前期日程の合格者1,462名が、同22日に後期日程の合格者379名がそれぞれ発表された。



合格者発表風景  
=3月8日、大会館掲示場で

## 金沢大学地球学公開セミナー 「ねんどとあそぼうーやきものづくり」

3月21、28日の両日、本学理学部において、地球学公開セミナー「ねんどとあそぼうーやきものづくり」が、理学部地球学科と金沢美術工芸大学の初めての共同事業として開催された。



土ひねりを楽しむ参加者

## 復元する谷戸田を調査

3月23日、角間の里山の西側斜面で谷戸<sup>やっつ</sup>観察会が行われた。永く放置された谷戸にはヨシが入り込み、湿った水田跡は人を寄せ付けない感じで、観察会の後、4月からこの谷戸の水田を復活させようと参加者が意見交換した。



復元計画について相談する参加者

## 編 集 後 記

新年度の学年暦のスタートとなる入学宣誓式が、4月7日(日)に行われた。本学の入学式といえば、兼六園の桜も大学内の桜もいつも満開だった気がする。今年はほとんど散ってしまっていて、開花がやけに早かったことを改めて実感した。そういえば<sup>たんぽぽ</sup>田圃のカエルの鳴き声も今年は妙に早くから聞こえてくる。天候が原因だとは思いますが、植物や動物たちも世の中のめまぐるしい動きに懸命についていこうとしているのかと思わされる。広報も彼らに負けないよう、その「時・動き」に対応していかねば。この4月から「広報」担当となりました。皆様のご協力、ご支援をお願いします。

(総務部企画広報室長 太田 義興)

平成14年4月26日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5009  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))  
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。  
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。